

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

圏域人口：72,713人
高齢者人口：16,832人
高齢化率：23.15%

高齢者人口が一番多い圏域です。地域によって高齢化率の差が大きく、公共交通機関・医療機関・商業施設など生活に必要な資源が豊富な地域と乏しい地域の差が大きいのが特徴です。住環境周辺の坂が非常に多い地域があり足腰が弱くなると外出困難に陥りやすくなるのが特徴です。

センターの取組方針や特徴

【センターの運営方針】

ご本人・ご家族・地域の主要な人たち、医療関係者、介護関係者等と繋がり、ネットワークを構築することを大切にしています。地域の中でやりたい事や思いを持っている人と繋がり、一緒に動いていくことで、地域主体の活動の活性化を進めていきたいと考えています。H29年度の年間事業計画目標と活動方針は、地域力の向上につながる、包括的・継続的マネジメント業務の充実を図っています。

【特に力を入れて活動している点】

- ①「少路・柴原あんしんプロジェクト」
- ②地域の中でやりたいことや思いを持っている人と繋がり一緒に動くこと

【活動の中での課題やその解決策】

①について

課題：WG単位でモデル事業を推進するための関係機関の合意形成・連携の調整が非常に困難でした。

解決策：3年間のワーキンググループの活動を通して培われたgreen lab 2025の活動を今後も継続して支援していくことで、医師同士・医療機関同士の情報共有、連携を推進する場づくりを支援し、在宅診療を実施する診療所の増加支援に努めていきます。

②について

課題：地域で活用できる地域の社会資源として、メリットを感じていただき、初めはご利用につながっても継続的な利用にはつながらない傾向がありました。市民さま目線では、介護保険を使っでの運動機能向上支援が、ケアマネもいて送迎付きで安楽・安心・安価である、という意識がまだまだ高い現状を感じました。

解決策：地域の通いの場づくり支援事業や、利用者さんへの介護予防の自助努力の意識啓発を行っていきながら、今後も、地域の中でやりたいことや思いを持っている人と繋がり一緒に動くことで地域主体の活性化に努めていきます。

総評

前回の外部評価の内容を踏まえ、研修の年間計画や高齢者虐待の帳票についても全員が作成できるよう共に検討するなど、改善されています。特に虐待において、迅速な対応ができるよう、新人職員に対しても、適宜指導を行っています。

相談室のプライバシーの確保について、改善が望まれます。

好事例

介護予防ケアマネジメントにおいて、アセスメントからモニタリング、評価まで、細やかに記録が記載されています。また、一覧表を作成し、管理していることで、滞りなく業務に取り組んでいます。「つぶやきシート」を活用し、少しずつではありますが、情報を蓄積しているため、その情報を今後を活用していくことを期待しています。